

2020年1月6日

各位

2020年社長（大田 勝幸）年頭挨拶について

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本日、JXTGエネルギー本社（東京都千代田区）にて行われました、当社社長 大田 勝幸のグループ社員に向けた「年頭挨拶（要旨）」を下記の通りお知らせいたします。

記

1. 当社を取り巻く環境と第1次中期経営計画

米中貿易摩擦の拡大や、英国EU離脱問題、緊張の続く中東情勢など、世界情勢は引き続き不安定な状況にある。エネルギー分野においては、各国で脱炭素化や脱プラスチックなどの環境問題が一層重要な社会課題としてクローズアップされている。

当社は、そのような環境下、将来に向けた様々な取り組みを実施し確実に前進している。第1次中計で取り組んできた統合シナジーは、目標の1,000億円を上回る見通しであり、基盤事業である石油精製販売事業の競争力強化に大きく貢献している。また、製油所・製造所ネットワーク再構築、SSブランド統一やEneJet導入などの販売諸施策を着実かつスピード感をもって実行できた。

次世代の柱となる成長事業においては、ENEOSでんきの販売エリア拡大や家庭用都市ガス販売への参入、新たな天然ガス発電事業、洋上風力発電事業への参画など、様々な事業分野で将来への布石を打つとともに社内外のベンチャープログラムの導入などにも取り組み始めている。

2. 長期ビジョン策定

昨年5月に、当社グループ全社員で共有するべく策定した「長期ビジョン」を発表した。

2040年には国内燃料油需要が半減するという予想、低炭素・循環型社会への移行や、経験することに価値を置くコト消費、シェアリングエコノミーの進展に見られる消費者志向の変化、デジタル技術の急速な進展などの事業環境の劇的な変化に対し、社会課題の解決やお客様の新たなニーズに応えるために議論を重ね、当社のありたい姿を描いている。

長期ビジョンには、IT技術の活用などを通して石油サプライチェーンを一層競争力のあるモノに磨き上げること、ケミカルリファイナリー化、技術立脚・環境配慮型の潤滑油や高機能素材の拡大、再生可能エネルギーやCO2フリー水素事業の拡大、エネルギーサービスプラットフォームやSSネットワークの生活プラットフォーム化といった、新たなサービスの提供を掲げている。

そして、革新的な価値を創造・提供し続けることで、グローバル社会の持続的発展に貢献し、アジアを代表するエネルギー・素材企業へと成長したいと考えている。

3. 第2次中期経営計画（2020～2022年度）

長期ビジョン実現の第一歩となるのが、来年度から始まる第2次中期経営計画である。現在、「成長事業への選択投資と革新的な価値創造」、「基盤事業の安全・安定操業と徹底効率化による競争力強化と継続的なキャッシュ創出」、そして、「スピード経営の実践」の3つの基本方針に沿って策定中である。

これらを実行していくためには、抜本的な構造改革が必要と捉え、6月にはJXTGホールディングスと実質的に統合し、同時に商号とブランドを統一する。

実質的統合は、経営会議・取締役会の一体運用、管理部門の合同部化、大幅な権限委譲によって、意思決

定の迅速化、自律的・独立的・機動的な業務執行を実現するものである。また、高い知名度を持つENEOSブランドを社名に冠し、国内外での新規事業の創出や成長事業の育成を強力に推進していく。そうすることで、このブランドをさらに大きく輝かしいものに磨き上げていきたい。

4. 構造改革に向けての意識

次に、構造改革を実現していくために、日々の仕事に取り組むにあたって意識してほしいことを、3点申し上げます。

(1) 全ての仕事の前提となる「安全とコンプライアンス」

ENEOSブランドの高い信頼は、当社グループのお取引先、協力会社を含め、社員全員が、日々、力を尽くして作り上げているものである。しかし、事故や不祥事は、積み上げてきた信頼を一瞬にして損ない、回復不可能な事態をも招く場合もある。社員一人ひとりの安全が確保されるとともに、社会で求められるルールを遵守することが、当社への信頼の源であることを日々確認し、気づかれていないリスクや埋もれがちな問題がないか話し合い、これを解決していくことを決して怠らないでほしい。

(2) 「変革と行動」

本年は、将来のありようを左右する大きな変化・変革の年であり、アジアを代表するエネルギー・素材企業へと飛躍するためのターニングポイントとなる。

基盤事業・成長事業にかかわらず、新たな価値を創出し、提供し続けることは並大抵のことではない。事業基盤が弱体化し改革を余儀なくされる前に、自ら変革し、変化を起こす側にまわって新しい世界をつくる、そういった気概・勇気・覚悟が必要である。課題に全力で向き合い、皆さん一人ひとりが変革の主役となり、自らを向上させ、切磋琢磨しながら変革・行動し続けることで、組織の力を最大限に発揮してほしい。

(3) 「スピード」と「外に目を向ける」

スピードの持つ価値は現在ではとてつもなく大きなものになっており、スピード感のない構造改革は、方向性が正しくとも、もたらす成果は小さくなる。スピードを重視し、成果に拘り続ける文化を醸成していく。

また、今後は、従来以上に外部情報への研ぎ澄まされた感性が重要である。自己の組織を中心とした見方や考え方は、大きな発想の欠如や方向性を誤る原因になりかねない。他者の視点を意識することが変革のきっかけになると考えている。

私は皆さんとともに、様々な背景や考え方を持った社員が、それぞれの観点から発想し、互いに認め合い、議論を深めること、そして、議論で得たものをENEOSという旗の下、一致団結して迅速、かつ大胆に実行に移すことのできる会社を作り上げたい。

5. 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて

いよいよ今年の夏は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される。当社グループは、大会施設や車両への石油・電気・ガス・水素の供給を通じて、大会の成功に向けて貢献していく。また、全国各地での各種イベントや聖火リレーへの参加など、特約店を含めENEOSに関わる全ての人・関係者の参画を得ながら、ENEOSブランドの価値向上にむけ、総力を結集して取り組んでいく。今回の東京2020オリンピック・パラリンピックの大会ビジョンには、我々が目指す姿とまさに同じ思いが表現されている。エネルギーには世界を変える力がある。一人ひとりが自己ベストを目指し、互いに認め合いながら、積極的に未来を切り開いていこう。

以上

※当社は東京2020ゴールドパートナー（石油・ガス・水素・電気供給）です。

JXTGは、社名もENEOSへ！

※ 2020年6月に開催予定の定時株主総会で定款変更が承認されることを条件に、同日日付で変更いたします。